

平成 29 年 1 月 25 日  
練馬区地域医療課

## 平成 28 年度事例検討会の結果報告

### 1 第 2 回（石神井地区）実施結果

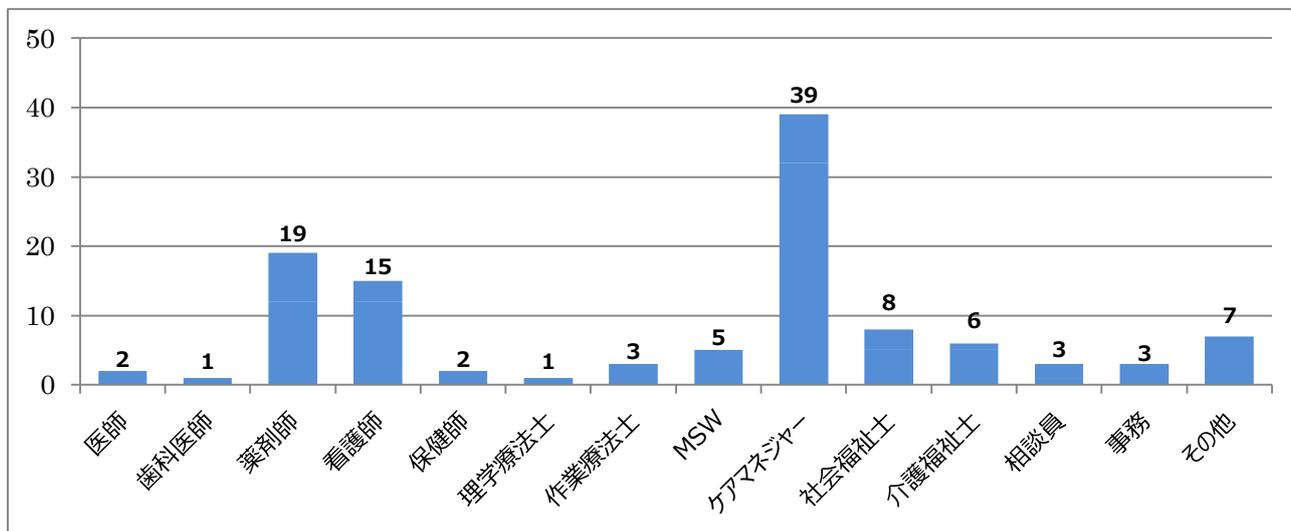
#### （1）開催概要

|            |  |
|------------|--|
| 事業目的       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養に関わる医療・介護の関係者が集まり、多職種の相互理解を深める。</li> <li>・石神井地区において事業所間、専門職間で顔が見える関係性を構築する。</li> </ul>   |
| 実施日        | 平成28年9月15日（木） 19：00～21：30  |
| テーマ<br>ねらい | <p><b>テーマ「多職種でがん患者の在宅療養を支える</b><br/> <b>－専門職はいつから、どのように関わるのが良いか－</b></p> <p>コーディネーター：メディケアクリニック石神井公園 長濱 久美（医師）</p> <p>&lt;概要&gt;<br/>         化学療法や放射線治療などの様々な治療を行っているがん患者の事例を通じて、在宅医療・介護の各サービスがどのタイミングで介入していくべきか、ケアマネジャーを中心に多職種の視点から検討します。</p>  |
| プログラム      | <p>第1部 事例検討会<br/>         事例検討「多職種でがん患者の在宅療養を支える<br/>         －専門職はいつから、どのように関わるのが良いか－」</p> <p><b>【発表者】</b><br/>         コーディネーター：メディケアクリニック石神井公園 長濱 久美（医師）<br/>         パネリスト：高野台居宅介護支援事業所 吉田 昌子（ケアマネジャー）<br/>         あいの風訪問看護ステーション 吉野 玲子（看護師）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で意見交換<br/>             テーマ：本症例において、それぞれの多職種が関わるべき適切なタイミングは、いつなのかを検討する。</li> <li>・各班から発表</li> <li>・発表者からの意見</li> <li>・まとめ</li> <li>・アンケート記入</li> </ul> <p>第2部 多職種交流会</p> |
| 参加者        | <p>事前申込者数 155 人、参加決定者数 104 人、傍聴 51 人<br/>         参加者数 85 人、欠席者数 19 人、参加率 81.7%<br/>         傍聴 42 人（当日参加 2 人を含む）</p>  |

(2) アンケート結果抜粋（アンケート回答者数 116 人・回答率 91.3%）

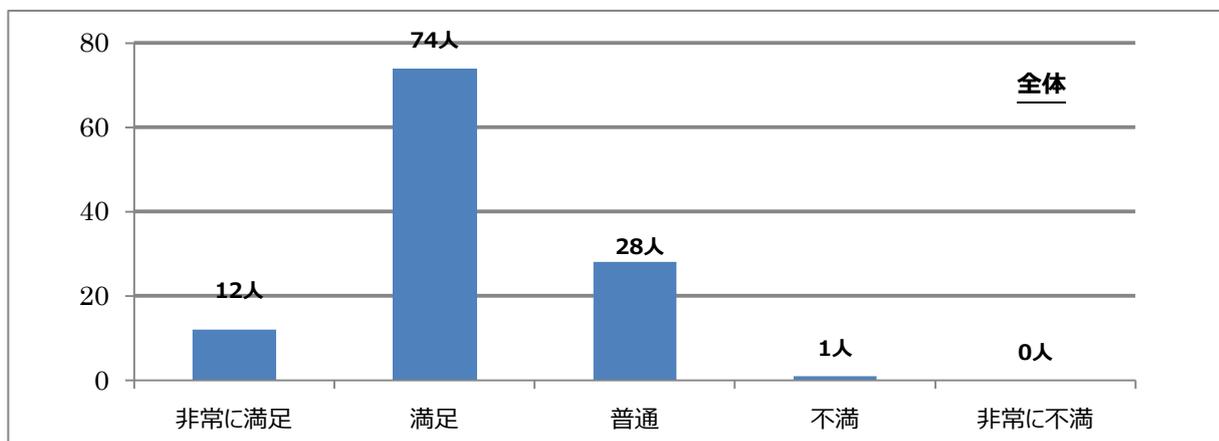
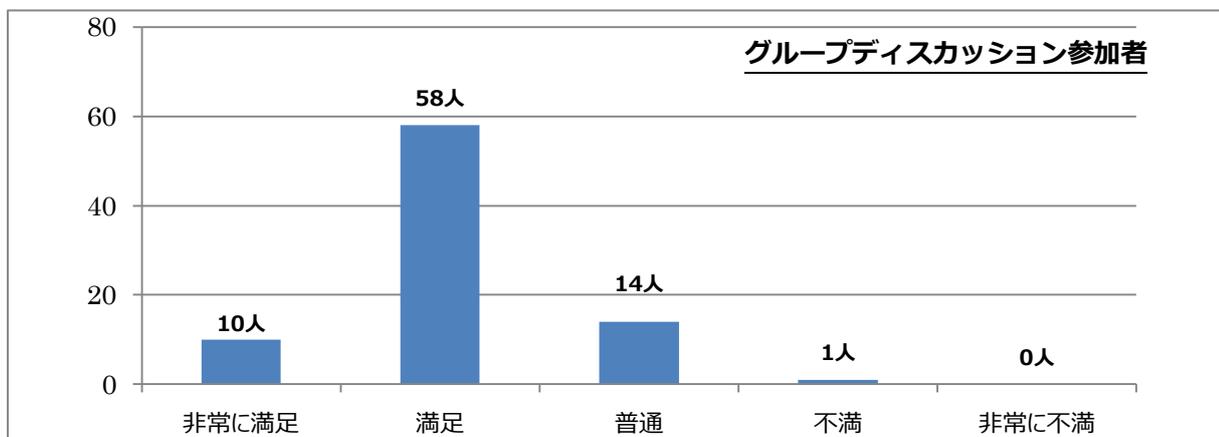
①回答者職種

参加者数が多かった職種は順に、ケアマネジャー（39 人／34%）、  
薬剤師（19 人／17%）、看護師（15 人／13%）だった。



②事例検討会の満足度

「非常に満足」、「満足」と回答した方が合わせて 74%（86 人）だった。



### ③満足度の自由意見（抜粋）

「非常に満足」

- ・多職種と同じテーマについてディスカッションでき、様々な意見が聞けた。
- ・訪問するタイミングの難しさがよくわかった。
- ・いろいろな角度からの意見が参考になった。

「満足」

- ・自分の職種以外の関わり方が見えてきた。
- ・様々な視点から検討することで問題の整理ができた。合わせて、どのタイミングでどのようなサービスを導入するのかが明確になった。
- ・介護サービスの導入タイミングの考え方を学ぶことができた。

「普通」

- ・話し合いの時間が短い。
- ・ディスカッションはできたが、正解がわからなかった。

「不満」

- ・ディスカッションの時間が30分では短すぎる。

### ④多職種に対する理解が深まったと実感した点（抜粋）

- ・様々な人の話を聞くことで、支援の幅が広がった点。
- ・普段電話だけで会話している方と、お会いできた点。
- ・サービスの導入タイミングや必要性について、直接意見を聞くことができた点。
- ・ケアマネジャーが司会発表をしてくださったので、全体の捉え方やサービスの種類・制限などが勉強できた点。
- ・医療職とディスカッションすることで、介護職として学ぶことが多かった点。
- ・医療職が、福祉・介護に期待するものがわかった。
- ・各職種の立場で、介入したい時期と理由に違いがあることを知った点。

## 2 第3回（大泉地区）実施結果

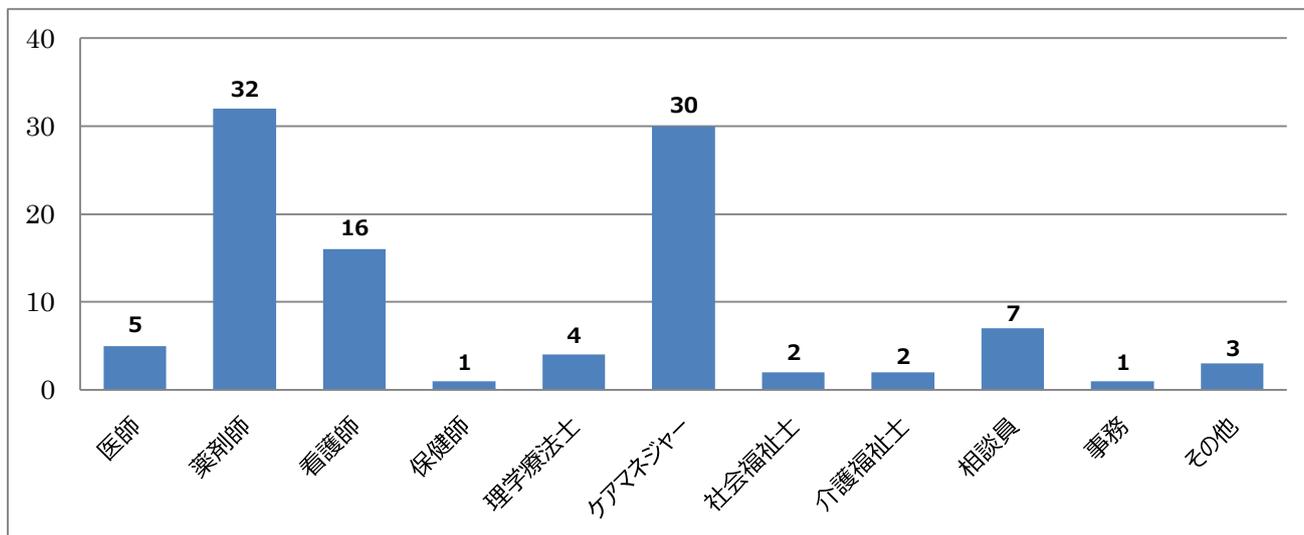
### （1）開催概要

|            |  |
|------------|--|
| 事業目的       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養に関わる医療・介護の関係者が集まり、多職種の相互理解を深める。</li> <li>・大泉地区において事業所間、専門職間で顔が見える関係性を構築する。</li> </ul>  |
| 実施日        | 平成28年12月15日（木） 19：00～21：30   |
| テーマ<br>ねらい | <p><b>テーマ「多職種で考える。視力障害を持つ一人暮らしの方の支え方<br/>-より長く、住み慣れた自宅で過ごしてもらうために-」</b></p> <p>コーディネーター：ひまわり調剤薬局 学園店 早川 吏津子（薬剤師）</p> <p>&lt;概要&gt;<br/>視力が極度に低下している独居の方の事例を通じ、在宅で療養する方が、住み慣れた地域で最期まで自分らしい暮らしができるよう、薬局の活用を含めた多職種の連携や、必要なチームケアについて検討します。</p>   |
| プログラム      | <p>第1部 事例検討会</p> <p>事例検討「多職種で考える。視力障害を持つ一人暮らしの方の支え方<br/>-より長く、住み慣れた自宅で過ごしてもらうために-」</p> <p><b>【発表者】</b></p> <p>コーディネーター：ひまわり調剤薬局 学園店 早川 吏津子（薬剤師）<br/>パネリスト：大泉高齢者相談センター やすらぎミラージュ支所<br/>井上 奈美（ケアマネジャー）</p> <p>&lt;概要&gt;<br/>視力が極度に低下している独居の方の事例を通じ、在宅で療養する方が、住み慣れた地域で最期まで自分らしい暮らしができるよう、薬局の活用を含めた多職種の連携や、必要なチームケアについて検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で意見交換</li> </ul> <p>テーマ：本症例において、自宅でより長く過ごしてもらうためには、医療面・介護面・生活面からどのような支援ができるのか検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班から発表</li> <li>・事例の経過報告</li> <li>・かかりつけ薬局に関する周知</li> <li>・まとめ</li> <li>・アンケート記入</li> </ul> <p>第2部 多職種交流会</p> |
| 参加者        | <p>事前申込者数 116人、参加決定者数 84人、傍聴 29人</p> <p>参加者数 74人、欠席者数 13人、参加率 88.1%</p> <p>傍聴 36人（当日参加11人を含む）</p>  |

(2) アンケート結果抜粋（アンケート回答者数 103 人・回答率 93.6%）

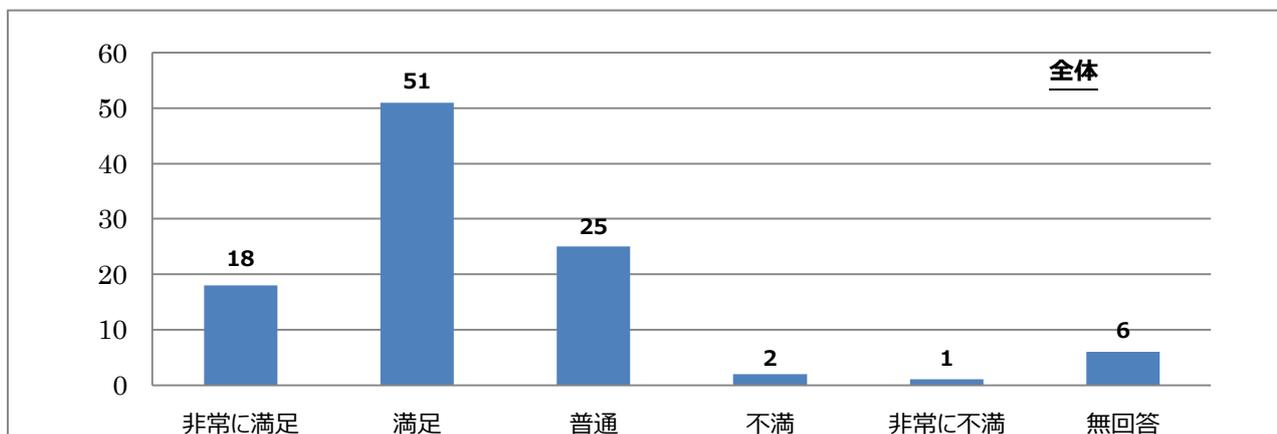
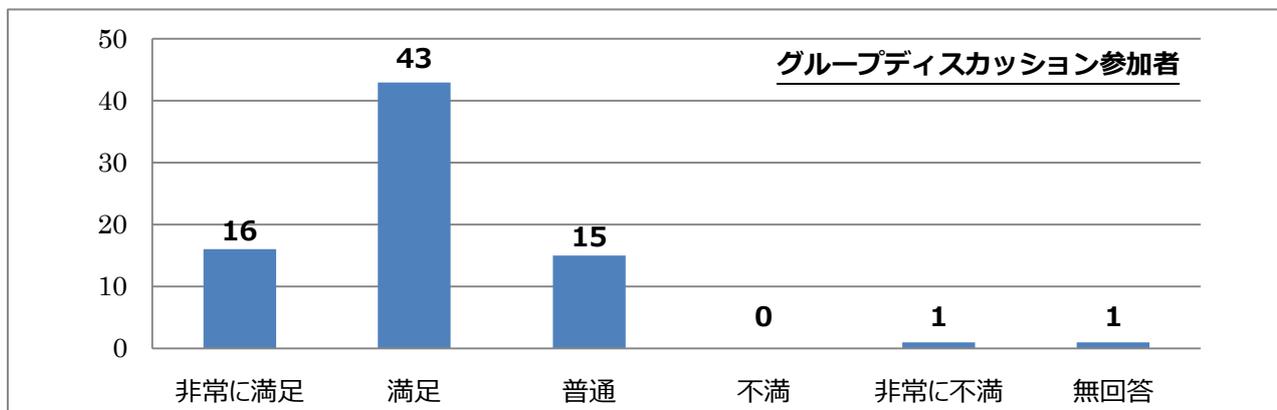
①回答者職種

参加者数が多かった職種は順に、薬剤師（32 人／31%）、ケアマネジャー（30 人／29%）、看護師（16 人／16%）だった。



②事例検討会の満足度

「非常に満足」、「満足」と回答した方が合わせて 67%（69 人）だった。



### ③満足度の自由意見（抜粋）

「非常に満足」

- ・いろいろな職種が集まり、幅広い見方を聞くことができた。
- ・自分が思いつかなかった点に気付かれている方がおられ、大変ためになった。
- ・普段、薬剤師さんと意見交換できる場がほとんどないので、自分とは全く違う視点がとても参考になった。
- ・薬局さんの力は大きい。地域の薬局と顔の見える関係を築いていく。

「満足」

- ・かかりつけ薬剤師等、薬局の在宅支援の活躍を認識できた。
- ・自分の職種以外の意見を聴くことは、患者・利用者へのアプローチを増やすとても意義のあることだと思う。今回のグループディスカッションで確かに自分の世界が広がった様に感じた。
- ・その方の1つの情報から他の専門職からは別の視点で意見が出されることに驚いた。多職種でケース検討をしていくことの大切さを改めて気づかされた。

「普通」

- ・グループワークのワークシートや進行の説明が無く、少し時間をロスしてしまった。
- ・事例検討の患者さんの情報が少なかったので、検討する時に十分な話しができなかったと思う。

「不満」

- ・ディスカッションの間のタイムスケジュールが不明。
- ・傍聴席のため、他の職種の意見を聞くことができなかった。

### ④多職種に対する理解が深まったと実感した点（抜粋）

- ・薬剤師の在宅に対する今後の考え方が分かった点。
- ・薬剤師の方が生活面をとっても考えてくれていることがわかった点。
- ・自身が着目しなかった視点からの提案が挙がることが多く、そのような考え方もあるのかと知ることができた点。
- ・薬剤師からの視点というテーマ特化型であり、グループにも多数の薬剤師の方がいたため、薬剤師さんからの視点講義が聞けた点。
- ・医療面からの視点ではなく、その方の生活、性格、気持ちを含めての対応について話が聞けた点。
- ・それぞれの職種の役割がなんとなくわかった点。